

## 5 基本的考え方

# ともにめざす 命をつなぐ堺のまち

平成 7 年に起こった阪神淡路大震災では建物の倒壊により多くの命が失われた。平成 28 年 4 月に起きた熊本地震でも多くの建物が倒壊している。

「彼は文化住宅の 1 階で下敷きになって、生きたまま炎に包まれました。  
精一杯鋸をひき、壁を壊し、梁をどかし、床をはぎ、彼を助け出そうとしました。  
火が近づいて来るのがわかった時、毛布に包まれた状態で彼は『俺助かるかな』と言いました。私は『絶対助けたる』と言いました。  
指先だけだった彼の身体も上半身が出てもう少しというところでしたが、スキーの板と折れた柱がどうしてもどけられず、私たちは彼を置いていかなければならなくなりました。」

これは、「阪神・淡路大震災における住宅被害による死者の発生とその要因分析」（平成 9 年、神戸大学修士論文、藤江徹氏著）の序文よりの引用である。建物倒壊により、家族を、友人を、同僚を失った悲しみを繰り返してはならない。この計画は堺市内において大地震が発生した際に、建物倒壊で命が失われることがないように、市民ひとりひとりが自らの命や地域の安全を守る防災意識を向上し、命をつなぐ堺のまちをともにめざすために作成するものである。